

本庁舎竣工記念式典・内覧・祝賀会を挙行

去る6月20日、本庁舎大会議室において竣工記念式典を挙行了しました。同式典には宮田亮平文化庁長官をはじめ約230名に出席いただき、本庁舎の完成をお祝いいただきました。

式典では、松村所長からご出席いただいた方々や竣工に尽力くださった方々への感謝と本庁舎の完成を一つの節目として、心新たに文化財の調査研究業務に邁進していく旨の式辞が力強く述べられました。

その後、工事概要説明、宮田文化庁長官からの祝辞および祝電披露がありました。また、多くの報道陣を前に、宮田長官から来賓の代表者と松村所長により、天平衣装の女性たちが威儀を正す中でテープカットがおこなわれました。

式典後の内覧では、真新しい庁舎内の執務室や大極殿から朱雀門までを見晴らす眺望、温湿度管理された文化財保管庫やCT等の最新研究設備、建設時に発見された遺構の表示等をご覧いただきました。

会場を平城宮跡資料館講堂に移しておこなわれた祝賀会では、鈴木元所長のご挨拶、田辺前所長のご挨拶・乾杯の発声の他、豊城文化庁文化財鑑査官や寺社関係者からも本庁舎竣工を祝うご挨拶をいただき、盛会のうちに終了しました。

奈良文化財研究所は創設以降、過去の庁舎はいずれも既設の建物を改修しての利用であり、今回はじめて新設の建物となりましたが、発掘調査時に遺構が確認されたことから大きな設計変更をおこない、当初予定から2年遅れでの竣工となりました。移転は9月におこなわれ、10月から本格的に運用を開始する予定です。（研究支援推進部 津寄 憲治）



230名を超える出席者に見守られてのテープカット

本庁舎エントランスでの展示

このたび完成した奈良文化財研究所本庁舎には、庁舎の中心となる本館とともに、南側には2階建ての小規模なエントランス棟があります。

庁舎の建替工事にともなう庁舎下の発掘調査では、西一坊大路や一条南大路の条坊側溝、平城京造営期の大規模な土木工事の跡、造営後の大路の修繕や改修の様子等が確認されました。このことを受け、庁舎のエントランス棟に、このたびの成果を紹介するための展示スペースを設けました。

この展示スペースでは、平城京造営前、平城京造営期、奈良時代の3期に分けて出土資料を展示しています。平城京造営期には、「奈良京」と書かれた木簡が出土し、「奈良」の表記が平城遷都当初まで遡ることがあきらかとなったほか、大路造成にともなっておこなわれた、^{いぐし}斎串を使った祭祀の具体相を示す遺構の検出等、貴重な事例も確認されました。

また、庁舎の建つ場所は運河を埋め立てた土地であるため、敷葉・敷粗朶^{しきば しきそだ}工法という軟弱地盤を改良する工夫や、液状化現象等の災害痕跡も検出されました。これらの事例も、土壌の切り取りやはぎ取り標本として展示しています。

本庁舎では出土資料の展示のほかに、庁舎外構に大路や条坊側溝等の遺構表示もおこなっています。遺構表示とあわせて展示をご覧いただくことで、庁舎の地下に眠る遺構を、より身近に感じていただくことができると考えます。

平城京の遺構と共存し調査成果を公開する奈文研らしい庁舎で、今後もこの場所の往時の姿をお伝えできれば幸いです。庁舎の地下に眠る世界をぜひご覧ください。（企画調整部 座覇 えみ）



本庁舎エントランスでの展示風景